

I 調査表 中学校 [道徳]

選定基準	観 点	出版社						
		東京書籍	教育出版	光村図書	日本文教出版	学研教育みらい	廣済堂あかつき	日本教科書
1 教科の目標からの配慮	(1) 教科の目標を達成するために必要な内容が的確に盛り込まれているか。	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) 内容、程度が生徒の発達の段階に応ずるよう配慮されているか。	○	◎	◎	○	○	○	○
	(2) 関心・意欲を喚起し、道徳的価値の追求に結び付く工夫がされているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	(3) 道徳的価値の理解を自分との関わりで深め、主体的・対話的に学習できるような工夫がなされているか。	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	(4) 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を通して、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されているか。	◎	○	◎	○	○	○	○
	(5) 文字の大きさ、文字数、レイアウト等は生徒の発達段階に応じて配慮がなされているか。	○	○	◎	○	○	○	○
	(6) 全ての生徒にとって読みやすいよう工夫され、さし絵、写真、配色、コントラスト等が鮮明で分かりやすく、問題がとらえやすくなるよう配慮がなされているか。	○	◎	◎	◎	○	○	○
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) 生徒の発達の段階に即して、それぞれの内容項目の教材が適切に配列されているか。	○	○	◎	○	○	◎	◎
	(2) 生徒が主体的に、相互に関わり合いながら取り組めるよう、地域や生徒の実態に応じ、各学校で創意工夫して適切な指導計画が作成できるよう配慮されているか。	○	○	○	◎	○	○	○
	(3) 道徳科における見方・考え方を働かせ、現代的な課題など物事を多面的・多角的に考えるために配慮されているか。	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	(4) さし絵、写真等の扱いが学習指導に生かさせるものになっているか。	◎	◎	◎	○	◎	○	○
	(5) 学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるよう工夫がされているか。	○	○	○	◎	○	○	○
4 全体的な特色	(1) 採択基準1～3の観点及び体裁を含めた全体的な特色。	◎	◎	◎	◎	○	○	○

II 適当と認めた理由 中学校 (道徳)

採択基準	適当と認めた理由	
1 教科の目標からの配慮	(1)	道徳科の目標を実現するために、生徒の発達段階に合わせて、登場人物への関与、問題解決的な学習、体験的な学習を通して、道徳的価値の自覚が深められる教科書となっている。また、発問は、生徒が多面的・多角的な見方や考え方ができるように意図を明確にした2つの発問に絞られている。主体的・対話的で深い学びを実現するための視点においては、発達段階と教材に合わせて、「あなたはどうか」「あなたはどうか」という問いも設け、主体的に考えられる工夫がされている。 学校生活の実態と生徒の成長を考慮した年間の構成となるよう、3つのまとまりに分けている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性	(1)	生徒の生活の時期や成長に合わせてシーズンが分かれて設定されており、大切にしたい、これからしていきたい点がまとめられている。資料の題名の上には印がついていて、4つの内容項目に分けられ、どんなことを学ぶのかがわかりやすくなっている。3学年であればキャリア教育、部活動引退など、各学年の生徒の状況とリンクするような内容が入っており、発達段階に合わせた教材が採用されている。 付録として各学年に小学校で扱う定番の資料があり、中学生でもう一度学習することで、多面的・多角的にものごとを考えられるようになっている。また、小学校とのつながりを大事にしている。
本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真 図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	(2)	マンガや写真が適宜使われており、生徒の関心・意欲を喚起し、生徒が授業に入りやすい工夫が見られる。文章だけの資料でなく、様々な形で資料が用意されていて、自分の思いを表現したり、友だちの考えを書き込んだり、どの生徒も道徳的価値の追求をしていけるような配慮がされている。
	(3)	中学生の目線で考えている内容が多く、自分と重ねて考えやすいと思われる。また、中学生が考えるには難しい社会問題も、実際に中学生の意見を載せることによって、身近に感じられるようになっている。グラフやデータが充実しており、現実的な問題として捉えやすいものになっている。「つなげよう」では自分の生活や身の回りのことと関連づけて考えることのできる発問が多くあり、主体的に学習できるような工夫がされている。 発問は、2問で構成され、一つは道徳的な問題を明らかにする問い、もう一つは道徳的な価値についての理解や自覚を深める問いとなっていて、生徒の主体的な意見や、自由な発想を大事にする工夫がされている。
	(4)	生徒が実感をもって考えを深めることができるように、役割演技を取り入れて行えることを想定している教材がある。生徒が演じるときに意識してほしいことが、ポイントで示しており、多面的・多角的に考えやすい工夫がされている。 「深めタイム」や「広げよう」では、自分の考えをまとめたり、二つの場面について比較して考え共有したり、多面的・多角的に学習できるようになっている。
	(5)	QRコードの活用により、朗読や動画を活用することができる。文字の大きさ、行間、1ページに記載されている文章の量など適している。また、発達段階に応じたレイアウトである。教科書の大きさは、大きすぎず、ちょうどよいB5サイズであり、授業においても扱いやすい。文字と写真や挿絵の配置のバランスがとれているため、大変読みやすい。また、字体や文字の大きさ、縦書き横書きなど、文章の内容によって変えているため、生徒が読みたくするようなレイアウトである。カラーユニバーサルデザインへの配慮もされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い	(1)	自分自身に関することがはじめの方に配列されており、自分の意志に関すること、自分で決める大切さ、その責任や生活習慣等、中学校に入学して自覚をもつ題材から始まるなど、シーズンやテーマによる配列がされている。また、自分の行動に向き合い、他者の意見を聞くことで成長できる題材が配列されている。内容項目の4つの視点の項目数についてもバランスが良い。
「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価	(2)	「道徳の授業を始めよう！」では、道徳で何を学ぶのか、どうやって学ぶのが望ましいのかが掲載されており、年度の初めに、道徳の1時間の授業を使って学ぶ価値のあるものが掲載されている。生徒が学習の見通しをもったり、意見を交流させる価値について学んだりすることができる。また、巻末にある「あなたへのメッセージ」「人生目標年表」など、勇気づけられたり、主体的に書き込めたりできる工夫がされている。
	(3)	「現代的な課題」の教材としては、自分の問題として考えられるよう、様々な分野の教材がある。特に、環境、国際理解、共生については、コラムもあり、関連して広げられるよう工夫されている。人工知能やUD化、防災・安全など、今話題となっている社会問題を取り上げると共に、実際に実在する人物や施設を取り上げてあるため、現実の問題として考えやすい。いじめや情報モラルに関する題材では、実際に生徒が遭遇しそうなものがあり、考えを深められるようになっている。「見方を変えて」の発問では、多面的・多角的に考えることができる。
	(4)	状況把握、心情理解につながる写真ならではの美しさや実際の人物の写真など、挿絵では表現できない場面把握を写真によって表現されている。また、声優の朗読など、生徒の関心を引き寄せ、意欲的に学習に取り組むことのできるコンテンツがある。教材への興味・関心を高めながら授業に臨めるような工夫がされている。
4 全体的な特色	(1)	3年間を見通した全体構成となっており、生徒の成長の過程、学校生活、教材との関連性など工夫されている。「現代的な課題」についても多様な教材が用意され、心に響く教材も多くみられる。また、文字の大きさやフォント、色、配置など、ユニバーサルデザインにおいても、すべての生徒が使いやすく、わかりやすいやすいため配慮がされている。 全体的にバランスが取れており、生徒が落ち着いて学習できるように配慮されている。また、多様な教材を選定しており、生徒が主体的に考え議論することができる工夫がされている。全体的に見やすく、興味関心がもてる工夫がなされ、何をこの時間で学んでいくのか、内容項目を意識した教科書になっている。

教科名	発行者	教科書名
道 徳	光村図書	中学道徳 きみが いちばん ひかるとき

上記発行者の教科書を選定した理由

- ・3年間を見通した全体構成となっており、生徒の成長の過程、学校生活、教材との関連性など工夫されている。大きく3つのシーズンに分かれていて、時期や生徒の実態に合った内容の教材が配置されている。
- ・「道徳の授業を始めよう」では、最初の道徳の1時間としてしっかり位置づけ、道徳で何を学び、どうやって学び、なぜ学ぶのかを考えてから道徳の授業に入ることを大事にしている。このことが学習していく上で、学びが深まる授業へとつながっていくと考えられる。
- ・発問については、生徒の実態や教材のもつ価値、ねらいをもとに、生徒の気持ちを十分にくみ取れる発問が大事である。そこで、「考えよう」「見方を変えて」など多面的・多角的な見方や考え方ができるような発問が提示されている。発問を生徒の実態やねらいに合わせ、教師が自由に考えられたり、生徒の主体的な意見や、自由な発想を大事にしたりする配慮がされている。
- ・「現代的な課題」については、SDGs、国際人道支援、ユニバーサルデザイン、AIなどの多様な教材が用意され、定番とされている心に響く教材も多くみられ、生徒が主体的に考え議論することができる工夫がされている。
- ・いじめ問題と情報モラルについては、全学年に教材を位置づけ、日常の中で起こりそうな場面を取り上げ、自分とのかかわりの中で考えられる工夫がされている。
- ・文字の大きさやフォント、色、配置など、ユニバーサルデザインにおいても、すべての生徒が使いやすく、わかりやすいやすいための配慮がされている。
- ・教材の内容によってダイナミックな写真や漫画、グラフや表、ポスター、新聞などの資料を随所に入れてあり、生徒が情報を読み取り、自分の考えをもとに道徳的価値観の交流ができる工夫がされている。
- ・主体的、対話的な学びを支え、だれもが学べる教科書ということで、デジタルコンテンツも充実している。QRコードをはじめ、デジタル教科書では、音声・朗読・関連動画の再生、挿絵や文章の編集など多岐にわたって活用でき、今後タブレットの利用や、リモート学習など自宅での一人学習にも対応できると考えられる。
- ・小中連携の視点において、各学年の補助教材として、小学校の定番教材を掲載している。小学校で学習した教材を、もう一度中学校で学習することにより、様々な角度から改めて考え、語り合うことで、成長した今の自分を感じ、深い学びへとつなげていくことができる。
- ・地域教材としては、信濃教育会からの菱田春草の教材や、補助資料の中には長野県にまつわるいくつかのものが掲載され、身近で親しみやすく、地域のよさを感じながら学習できる。